

令和 7 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	1 主体的な学習と部活動、学校行事への取組をととして、それぞれの進路希望を実現するための学力と、未来を生き抜く人間力を育成する。 2 企業等と連携した地域探究活動により、課題理解と解決能力を養い、新たな価値を創造する資質と能力を身に付け、地域発展の中核となる人材を育成する。 3 長岡・川西地域唯一の高校として、「やっぱり、好きんが、向陵」の合い言葉どおり、誰からも信頼され、愛され、誇りあふれる、地域の拠点校を目指す。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断ができる能力を育成します。 ②強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい態度を育成します。 ③相手の立場に立って物事を考え、人の心を汲み取って思いやる温かい心を持つ姿勢を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①選抜性の高い大学や専門学校受験に対応できる教科・科目を重点的に配置し、1・2 学年では全員が共通の教科・科目により、広く基礎的な知識・技能を学びます。3 学年では大学文系・理系選択を主とした選択科目により、個々の進路目標や興味・関心に合わせて学びます。 ②授業第一主義とし、主体的・対話的で深い学びの充実と探究的な学びの実現に向け、I C T を積極的に活用し、学習評価の妥当性・信頼性をより一層高めるなど、不断の授業改善を行います。 ③「総合的な探究の時間」では、各教科学習で身に付けた知識・技能等を活かし、課題発見・解決力の育成を主とした地域探究活動を行います。思考力や判断力・表現力、情報活用・プレゼンテーション能力等も育成し、自己の将来の在り方生き方の確立に関連付けます。 ④学校行事や部活動では、安全安心な環境整備に努め、生徒の主体的な活動を支援するとともに、多様性を尊重し他者と協働して対処していく力を育てます。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①学習と部活動、学校行事に主体的に取り組み、自己の目標に向けて努力する生徒 ②人権を尊重し、他者を思いやり、協働的に学校生活を送る生徒 ③学校に誇りを持ち、地域を理解し、将来は社会に貢献する意欲を持つ生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
○授業第一主義のもと、わかる授業の実践やきめ細かい進路指導により、一昨年比1学級減ではあるが国公立大学合格者数が65人となり、一定の水準を達成できた。学校推薦型選抜や総合型選抜での出願が増加傾向にあり、進路指導部と担任の連携を一層深め、より丁寧な出願指導をしていく。 ○生徒が主体的に取り組む授業、わかる授業を実践するために、教職員で互見授業を行った。自教科はもちろん、他教科の授業を参観し意見交換を行い、改善点を共有した。次年度は年2回実施する予定。 ○総合探究の時間では、進路指導部の中に探究班を設置し、指導体制を確立する中で、生徒の主体性を伸ばし、協働を促す実践を目標にして、地元自治体との連携協定のもと、地域企業、大学等と連携して取り組んだ。次年度は、職員	基礎学力を身につけさせ、進路希望を達成させるための学習指導力の確立	・学力の到達度観測、授業改善、シラバスの精度向上 ・効果的な宿題、予習、復習を前提とした授業、小テストによる確認等
	入学から卒業までの計画的キャリア教育の推進	・進路ガイダンス、進路講演会、大学講義体験、キャリアアップセミナー(卒業生講話)、総合探究等によるキャリア教育の充実と職業観の醸成
	生徒指導の徹底による校内規律の確立と特別活動の活性化	・SNS教育プログラムによるネットモラルの指導、SOSの出し方に関する授業によりいじめ、自殺の未然防止指導、頭髮 指導、制服着用指導を行う。 ・校則遵守の指導を繰り返し行い、規範 意識や社会性を育成する。 ・清掃や校内美化の指導を通して、社会性や公共心を育成する。 ・心身の健康管理や食育等を通して、健全な生活習慣の確立を図る。 ・人権尊重の精神やいじめを許さない意識を育み、自他の相互理解の上にたった共生・協力の精

間の連携を図りながら取組内容を更に発展させていく。 ○体育祭、聡慧祭等の行事では、生徒が主体的に企画、運営をし、積極的に活動した。今後も生徒の主体性を尊重しながら、社会人として自立し、人に優しく、心身ともに逞しく成長し、社会に貢献する人間の育成を目指し、教職員が効果的な支援・指導をしていく。 ○教職員対象に生徒指導校内研修（自殺予防、特別支援教育、SNS）を3回実施した。いじめ等様々な事案に対して未然防止、組織的対応等ができるよう、引き続き指導力を高める研修を続けていく。また、課題を抱える生徒には、それぞれに応じたチームを作り、迅速できめ細やかな対応をしていく。		神の涵養を図る。 ・HR活動・生徒会活動・学校行事の特別活動の活性化に努め、生徒の自発的・自治的活動を促進し、自主・自律の心を育成する。			
保護者、地域社会との連携を図り開かれた学校づくりを推進する。		・ホームページの更新回数を増やし、積極的に情報発信を行う。 ・クラッシーを活用し保護者、生徒へタイムリーに情報配信をする。 ・総合的な探究の時間では、企業等と連携した地域探究活動により、課題理解と解決能力を養い、新たな価値を創造する資質と能力を身に付け、地域発展の中核となる人材を育成する。			
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価	
基礎学力を身につけさせ、進路希望を達成させるための学習指導力の確立	○学力の到達度観測、授業改善、シラバスの精度向上	（教務部） ・授業時数が確保された年間行事計画を作成する。 ・ICT環境を整備し、学習活動の充実を図る。 ・授業改善研修の実施や互見授業の設定により、教科指導力の向上や指導法の改善を図る。	B	B	
	○効果的な宿題、予習、復習を前提とした授業、小テストによる確認等	（進路指導部） 基礎学力調査や進研模試を活用し、基礎学力の定着度を確認し、指導の工夫・充実を図る。	B		
		（生徒指導部） 挨拶、頭髮服装、スマートフォンルールを始めとして校則を主体的に守る姿勢を育成する。また、アンケートを用い、生徒の悩み等を早期に把握するよう努める。	B		
		（1学年） ・朝学習を実施する。 ・週末課題を実施する。 ・一日平均2時間の家庭学習を定着させる。	B		
		（2学年） ・朝学習を実施する。 ・週末課題を実施する。 ・一日平均2時間の家庭学習を定着させる。	B		
		（3学年） ・週末課題を実施する。 ・朝学習を実施する。 ・4年制大学進学希望者については、平日3時間、休日4時間の家庭学習を定着させる。	B		
入学から卒業までの計画的キャリア教育の推進	○ガイダンス等による大学入試システムの理解	（進路指導部） ・国公立・私立を問わず様々な大学の分野系統別大学講義体験を、1、2年生対象で実施し、進学意欲の向上と意識の啓発を図る。 ・学年毎の進路講演会、また特に、3年生向けのガイダンスを積極的に実施し、模擬試験結果の振り返りや大学入試のシステムを理解させ、進学意欲の向上を図る。	A	A	
	○高大連携事業やオープンキャンパス等による進学意識の向上	・オープンキャンパスや大学見学等に積極的に参加させ、進路目標を明確にするとともに進学意識を高める。 ・SKIP（聡慧探究プロジェクト）の推進。地域社会の課題解決を通して、判断力・表現力・行動力を養う。			
	○キャリア教育による職業観の醸成	（生徒会指導部） ・基本図書及び生徒希望図書を充実させる。 ・学校放送等で円滑な運営を行うために、視聴覚委員に視聴覚機器及び放送機器の操作等を指導し、視聴覚委員会の活動の促進を図る。	B		
		（1学年）	A		

		・進路に関する講義・講演会を実施する。 ・長岡市や市内4大学と連携した探究学習を通して、自己のあり方や社会との関わりについて考えさせる。 ・進路関係見学会等への参加を促す。 ・基礎学力調査・模擬試験結果を踏まえ、補習等を行う。			
		(2学年) ・進路に関する講義・講演会を実施する。 ・長岡市や市内4大学と連携した探究学習を実施し、自己の在り方や社会との関わりについて考えさせる。 ・各種進路関係見学会へ参加させる。 ・基礎学力調査・模擬試験結果等を踏まえ、補習等を行う。	A		
		(3学年) ・保護者向けの進学講演会を実施し、進学に関する理解を深めてもらう。 ・模擬試験の結果を踏まえ、←削除 担任・副任による個別面接指導を行い、生徒の進路希望の実現にむけた支援を適切な時期で実施する。 ・学年だよりを通し、進路指導部と連携して進路情報を提供する。 ・長期休業中に進学補習を実施する。平常補習を実施する。	A		
生徒指導の徹底による校内規律の確立と特別活動の活性化	○ネットモラル教育、頭髮指導、制服着用指導を行う。 ○規範意識や社会性を育成するため、主体的に校則遵守できる人間性を育成する。 ○心身の健康状態を意識し、適切な自己管理ができる実践力を育成する。(保健) ○校内の環境整備活動を通して、安全かつ清潔な生活習慣を身につけさせると共に、公共心を育くむ。(清掃) ○災害発生時に、安全確保と人命確保の行動がとれる実践力を養う。(防災) ○人権尊重の精神やいじめを許さない意識を育み、自他の相互理解の上にたった共生、協力の精神の涵養を図る。	(生徒指導部) ・日々の教育活動を通じ、頭髮服装を自ら正す人格形成を行う。 ・生徒指導部を中心とし全職員の協力のもと SNS 教育プログラム、SOS の出し方に関する授業を行う。自転車通学街頭指導の実施を行う。 ・年3回の校内研修の実施。	A		
		(生徒指導部・管理保健) ・定期健康診断を通して、自分の発育や健康状態を把握させ、必要な生徒には定期的に管理状況の確認と健康相談を行う。 ・心の問題を抱える生徒に対しては、早期発見に努め、関係職員、保護者、関係機関と連携しながら対応する。 ・健康に関する講演会など学習の場を設定する。 ・ゴミの分別と削減を徹底する。 ・清掃用具の管理と整備を行う。 ・行事の機会を生かして、清掃指導の強化と公共施設としての意識づけを行う。 ・避難訓練を通して、災害発生時の意識を高め、防災の知識と実践力を身につけさせる。	A		
		(生徒会指導部) ・生徒会諸活動、HR活動、学校行事を通じ、協力して諸活動を成し遂げる達成感を持たせる。	A		
		(人権教育、同和教育、男女平等推進委員会) ・各種研修会に積極的に参加し、レポートとしてまとめ、職員全体で共有する。 ・新入生を対象とした学習歴アンケートを行い、活用する。 ・生徒・職員向け人権教区・同和教育講演会を実施し、人権意識を醸成する。 ・副読本「生きるV」、ビデオ教材などを活用した授業を、ホームルームで行う。委員会で、教員が活用できる教案を作成する。	A		
				A	

	○HR活動・生徒会活動・学校行事をとおりして生徒の人権意識の醸成を促す。				
保護者、地域社会との連携を図り開かれた学校づくりを推進する。	○保護者や地域に積極的に情報に公開と発信を行う。	(教務部) ・学校ホームページの充実を図り、地域や保護者・生徒への情報発信を行い、教育活動の公開に努める。 ・オープンスクールや公開授業を設け、保護者・地域に情報を発信するとともに、授業改善の契機とする。 ・PTA・後援会活動の運営において、PTA・後援会役員および保護者との連携を密にする。 ・PTA会報の発行等で、保護者に情報発信をする。	B	A	
		(生徒指導部) ・「生徒の日常生活についての心得」を発行し、保護者との連携を密にしていく。また、いじめ防止基本方針を周知する。 ・「保健調査票」と行事前の「健康調査」の実施を基本とし、必要に応じて保護者面談や受診の勧めを行う。また、「保健だより」を発行し意識啓発を行う。	A		
		(進路指導部) ・「進路の手引き」を発行するとともに、学年進路や進路指導主事を講師とした保護者対象の進路講演会等を実施し、保護者に対して的確な進路情報を提供する。 ・地域社会が抱える課題に取り組み、その成果を地域や保護者に向けて、発表会などの機会を通じて発信する。 ・探究コンソーシアム連絡協議会を通して関係機関と連携し、探究の意義を理解させるとともに、主体的・協働的に取り組む態度を養う。	A		
		(生徒会指導部) ・生徒会諸活動を活発にし、成果を生徒会刊行物等により保護者に発信する。	A		
		(1学年) ・総会時の学年PTA、保護者面談を通して生徒の現状を理解させ、学年だよりで学校の状況を伝える。	A		
		(2学年) ・総会時の学年PTA、保護者面談を通して生徒の現状を理解させ、学年だよりで学校の状況を伝える。	A		
		(3学年) ・総会時の学年PTA、三者面談を通して生徒の現状や学校の様子を理解してもらう。学年だよりで学校の状況を伝える。	A		
成果		○教科指導力を向上させ、生徒が主体的に取り組める授業を実践するため、教職員で互見授業を行った。自教科だけでなく、積極的に他教科の授業を参観し、改善すべき点について共有していくことが今後の課題である。 ○Classiを積極的に活用し、学年通信、進路情報、生徒指導情報、奨学金情報、アンケート等を発信し、生徒・保護者へ情報提供を行った。 ○校舎改修事業にともない、年度当初の授業計画の変更を余儀なくされた。次年度も改修が行われるため、早期に情報共有を図り、授業への影響を最小限に止めるよう努めることが求められる。 ○進路指導においては、前年度比1学級減であったが、国公立大学合格者数が65人と一定の水準を満たした。学校推薦型選抜や総合型選抜での出願が増加傾向にあり、進路指導部と担任の連携を一層深め、より丁寧な出願指導をしていく。 ○「進路講演会」や「進路ガイダンス」を通して、進路情報の提供や進学意識の啓発等、当初の予定通りに実施できた。また、保護者対象の進路講演会も、3年生3回に加え、1・2年合同保護者講演会として校外で実施し、多くの保護者の出席を得ることがで	総合評価 A		

		きた。 ○探究学習については、長岡市との「探究学習の推進に関する連携協定」及び県の「高校と地域との連携・協働体制構築事業」により、地元企業や大学等と連携を図りながら、生徒は探究学習を通じて多様な正解なき課題を解決するための様々な力を育んだ。 ○いじめ事案について速やかに管理職への報告がなされ、いじめ防止対策委員会で情報共有するとともに、生徒指導部とも連携し組織的に対応することができた。 ○スマートフォンの使用に関してルールを守れない生徒が増加傾向にある。生徒にルールを守る意義を理解させていくことが今後の課題である。 ○体育祭、聡慧祭などの行事について、保護者や地域の方に見ていただき実施することができた。生徒が主体的に企画、運営する活動を今後も尊重しサポートしていく。	
--	--	---	--